

発行日：2009年12月1日

発行人：パートナー情報誌「香澄」編集部

編集員：浅野明宏、有吉潔、稲葉寛、大島寿夫、
尾形孝彦、栗原知彦、中村利夫、平江俊之、
安川敏行、深澤幸義、軽部達夫、中原清人

霞ヶ浦環境科学センターパートナー活動の役割と展望

○ はじめに

2年前にセンターに転勤して以来、私は、ことあるごとに「センターパートナー活動の意義・役割とは何なのか」、「将来に向かってどのようにパートナー活動を展開していったらよいのか」ということを自分自身に問いかけてきました。この問いかけは今でも続いています。試みに、現在私が「パートナー活動の役割と展望」について思い描いているイメージをここに提示することで、センター職員とパートナーの皆さんとともに、改めてパートナー活動のあり方について考えてみたいと思います。

○ センターパートナーの担っている2つの役割

私が思い描くイメージをよりわかりやすく伝えるため、はじめにパートナーの皆さんを、敢えて次の3つの区分に分けて考えてみます。

- ① センターから依頼される各種事業（環境学習、自然観察、環境啓発イベント、環境書籍の利用促進など）の補助業務を行うことを活動の中心に据えている方
- ② センターから依頼される補助業務だけにとどまらず、自主的・発展的な活動に取り組んでいきたいと思っている方
- ③ パートナー登録をしてみたが、様々な理由から活動には参加していない方

もちろん、実際には、時に①であり、またある時には②という想いも抱き、そして身の雑事が忙しい折には③の状態になるといったふうに、パートナーの皆さんをいずれか1つの区分に押し込めることはできないと思います。

それでも、敢えてこのような恣意的な区分を設けてお話ししようとするのは、センター職員とパートナーの皆さんに改めて「パートナー活動の意義や役割」、そして「センターとパートナーとのつながり」について考えてもらいたいからです。そして、「パートナーという存在はセンターにとって欠かすことのできない貴重なものであるのだ」ということを互いに再認識してもらいたいからです。

たとえば、センターの一大イベントである夏まつりにおいては、毎年35名程度のパートナーの皆さんに協力してもらっていますが、パートナー①の方々が少なくなり、夏まつりの運営スタッフが減ってしまえば、夏まつりを現在の規模で実施していくことは不可能となってしまいます。そして、このことは環境学習や自然観察などの他の事業においても同じことが言えます。センターの事業運営はパートナー①の皆さんによって支えられていると言っても過言ではありません。

他方で、パートナー②の方々がいなくなってしまうと、センターから依頼された補助業務以外の活動が構想されることはなくなり、未来永劫に渡って自主的・発展的なパートナー活動の展開を望むことはできなくなるでしょう。

今年度、新たに立ち上げられた「パートナー企画・広報委員会」による自主活動イベント・プロジェクトの企画・運営、パートナー情報誌『香澄』の発行といった活動は、パートナー活動の未来を考えるうえでも、行政と市民との協働のあり方を考えるうえでも、たいへん大きな可能性を秘めたものだと思いますが、この可能性をどこまで発展させることができるかは、センターが②の想いを秘めたパートナーをいかに育み、彼らといかに協力し合って活動のフロンティアを開拓していけるかにかかっているのだと思います。

また、③の状態にあるパートナーの方々にいかにして①や②の活動へと参加してもらおうようにしていくかということも、パートナー活動の継続性を考える時には解決すべき大きな課題です。

○ センターパートナー活動の未来へ向けて

センターのパートナー活動は、①②それぞれの役割を担うパートナーの皆さんがいて、この両輪がバランスよく回転していくことによって、はじめて活力ある未来へとつながる活動になっていくのだと思います。センター設立5年目の今年、パートナーの皆さんが、「県民の一人としてセンター事業に参画し、その運営をサポートする」とともに、「センター事業を超えた自主的・発展的な環境保全啓発活動にもチャレンジしていく」という自らの役割と、「自分たちが職員と一緒にセンターを支えているんだ」という想いを再認識し、未来へ向かってセンター職員と手を携えながら、他県にも誇れるような市民ボランティア体制を作り上げていくことを、私は心より期待しています。

（霞ヶ浦環境科学センター 中原）

イベント・記録グループ

今年度のイベント・記録グループは、自主活動テーマとして設定された「環境フォトコンテストの実施」、「センター周辺ウォーキングマップの作成」を中心に活動しています。今回は、この2つのテーマに対する想いと現在の活動状況をお話ししたいと思います。

1) 環境フォトコンテストの実施

今年度は「輝け！霞ヶ浦」というテーマを設定し、昨年度に続いて、第2回目の作品募集（10/1～1/31）を行っています。霞ヶ浦というと「汚れている」というイメージが先行しがちですが、周辺をよく見れば、古き良き歴史を感じさせるもの、昔から言い伝えられている風習、きれいな景色等たくさんの良い面があります。今回の環境フォトコンテストでは出来るだけ明るいイメージの霞ヶ浦をアピールできればと思っています。

応募案内はすでに全パートナーの方へお送りしています。作品の展示は平成22年2月頃に予定しています。パートナー、センター職員からの多数のご応募をお待ちしています。

2) センター周辺のウォーキングマップの作成

その土地に来たらまずその土地のことを知ることから始まるといわれています。センター周辺には歴史的に価値あるものがいくつかあり、また自然に恵まれた里山、植物、昔からの風習等まだわからないことが多々あります。まずは気楽にウォーキングすることで、地元の代表的なことがらわかるようなコースマップを作成することから始めています。

コースは戸崎地域、沖宿地域の約5km以内（2時間以内）を想定し、現在は戸崎地域の資料を収集しています。10月2、16日の2日間実際にウォーキングして写真撮影、場所の確認、距離、所要時間等の調査をしている段階です。実際に歩いてみると、戸崎城という小さい城を中心に栄えていたという歴史がよく感じられます。

これから他グループにも協力をお願いすることもあると思いますので、その節はよろしく願いいたします。

第1回目のウォーキングマップは平成22年2月までに作成する予定です。

(イベント・記録グループリーダー 栗原)



植物グループ

○ パートナー活動の記録（平成21年度秋期）

「香澄」11号で報告しました春、夏に続いて、秋期におけるセンター主催の「野外講座」での運営補助活動は、潮来市水原地先での「秋の湖岸植物観察」（9月）、かすみがうら市雪入地区での「流域の自然（植物）観察と陸前浜街道の家並み」（10月）が実施され、2回で20名が参加しました。（段々とパートナーの参加者が多くなり一般参加者からクレームが出たため、9月から活動参加パートナーを1回10名程度に制限しています。）

次に「定点観察」活動では、秋風とともに大方の植物は、生育・開花から結実へと変化してきました。イシミカワ、スイカズラ(A区)、ビナンカズラ(E区)、アオツヅラフシ、ノイバラ(F区)、オニグルミ、ガガイモ(G区)、ノイバラ、ノアズキ(H区)等の緑(青)色の幼果から紫(黒)、赤色へと成熟が見られました。

秋の花ではタデ科のサクラダテ、シロバナサクラダテ、ミヅソバ、アキノウナギツカミなどが開花し、特にH区でのサクラダテの群落は見る目を楽しませてくれます（花期が長いので）。

(植物グループリーダー 有吉)



サクラダテの群生



サクラダテの花



イシミカワの実身



ビナンカズラの実



ノイバラの実

新聞クリッピングから

○「温暖化について2題」

最近の新聞紙面で「地球温暖化」に関して目についたトレンド企画記事を2つ紹介します。

その1:「地球温暖化は、本当に人の影響か」論争

国連の気候変動に関する政府間パネル (IPCC) の第4次評価報告書に「人為的影響による温暖化の可能性について、“非常に高い(確率90%以上)”と述べられているが、果たして、人間が全面的に悪者なのか?という疑問が一部の学者から投げかけられているというもの。朝日新聞が「温暖化バトル・・・懐疑論は本当か」を、平成21年6月26日付けより5回にわたって連載している。

IPCCによるこの結論に対して一部の学者から「二酸化炭素(CO2)濃度は増えているが、気温は下がっている。IPCCの前提は崩れた(自民党地球温暖化政策推進本部)」を初め「最近の気温上昇の大部分はやや寒冷だった時期(小氷河期)からの回復」との主張や、気候モデルの精度そのものが問題との指摘など、人間だけが一方的に悪者になることについて問題提起している。

浅学にして真偽の判断はつきかねるが、こういった企画記事の掲載もメディアの役目でもあり、興味深い企画記事であろう。

その2:「地球温暖化」と「気候変動」

メディアによって相違はあるが、環境問題の記事を書く際「地球温暖化(global warming)」から「気候変動(climate change)」へタイトルの表記が変わりつつあるように見える。もちろん、両者は同義語ではないので、機械的に書き換えているわけではないが、一般的には、温暖化は主に地球の平均気温が上がり、この気温上昇が気候の変化につながるという関係に対して、気候変動とは、気温以外にも雨、風雪、雲など気象全体の変化が長期間続くこと。ちなみにIPCCの日本語訳(前出)には気候変動が使われ、温暖化対策を定めた条約も「気候変動枠組み条約」と訳されている。

米国環境保護局のウェブサイトにも“気候変動という用語が好まれるようになってきた”とその理由とともに掲載されているようだ。(朝日新聞「ニュースがわからん」から)。

いずれにしても、環境問題を考えるとき、そのスタンスに変化が見られ、メディアも敏感に反応しているということか。蛇足ながら、あえて新聞社ではなくNHKの視聴者広報室のこの件を問い合わせてみたら「特に区別の規定はありません」との返答だったが。
(図書グループ 細谷 浩)

新人パートナーのグループ活動の感想

21年度から新たにパートナーになられた方々からグループ活動の状況についての感想が寄せられているのでご紹介します。

目次 隆(研修G, イベント・記録G)

本年4月よりパートナーとして「研修グループ」「イベント・記録グループ」に参加して半年過ぎました。その間、主として「研修グループ」で稲田先生、宮本先生のご指導のもと、小学生を対象に「霞ヶ浦の水質分析、プランクトンの観察を行いながら、霞ヶ浦の水質改善を目指す学習」のお手伝いをさせていただきました。私にとって小学生相手は今までに無い経験で楽しく、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

今後も時間の許す限り、パートナーとして少しでも活動範囲を広げ活動したく考えております。

吉原 稔(研修G, イベント・記録G)

5月度の霞ヶ浦入門講座でお隣に座られた方よりパートナーの制度を知り応募し、6月より研修グループでお世話になっております。

私は電気関係の出身なので、水の科学は全くの素人なので受講者と一緒に勉強実験しているようなものです。唯、対象が4~5年生なので第一に無事故の実験、第二に記憶に残る実験になるよう一期一会の気持ちで接したいと思います。

槇田 聖子(植物G・, 図書G)

知人の紹介で、この活動を知り、9月から参加させて頂くようになりました。

特に、植物の野外講座や定点観察活動には興味深く、霞ヶ浦周辺の植物がいかに環境に影響を受けながら生息しているかという実態を知ることができました。又、活動されている方々の愛情ある植物への接し方に触れ、自らの意識も変わっていく気がします。

微力ながら、活動に一員として参加できることを楽しみにしています。

スイス2日目はアイガー、メンヒ、ユングフラウなど、4000m級の名峰を右に左に見ながら標高3454mのユングフラウヨッホ（若い娘の肩）までの登山鉄道、氷河特急の旅と、世界遺産アレッチ氷河の観光、それにアイガーグレッシャー駅からクライネンシャーデック駅まで約2km、1時間のハイキングを楽しみました。ユングフラウヨッホには、昔懐かしい赤い円筒形の日本の郵便ポストがあり、ハガキは1ユーロで日本に届きます。但し、日にちは7日かかりました。

アレッチ氷河の展望台からの眺めは、やはり世界遺産にふさわしい雄大な眺めでしたが、氷河に1歩足を踏み入れたところ、温暖化のせいかわかりませんが（観光したのは6月下旬）、雪の表面が融け、くつ底の山があまり無いハイキングシューズでは滑って歩きにくかったです。

アイガーグレッシャー駅からクライネンシャーデック駅までのハイキングコースからの眺めは、板状に重なった地層の崖が続くユングフラウやメンヒの中腹、足元から60度近くの傾斜角度で落ち込む氷河に削られた谷、その間のなだらかな面に広がる黄、ピンク、青紫色の高山植物のじゅうたんなど、もう1度行きたい国の第1位にスイスが挙げられることが実感できる1日でした。

黄色は西洋タンポポで霞ヶ浦周辺で見られるものより小振り、ピンクはアルペンローゼ、青紫色はゲンディアナ・アカウリウス（リンドウの仲間）だそうで、お目当てのエーデルワイスは、スイスではもう山奥に行かないと無いそうです。おみやげ店で売っているエーデルワイスは、ほとんど隣国オーストリア産だそうです。

それにしても、西洋タンポポがスイスアルプスの一角で、しかも優占種？でお目にかかれるとは思いませんでした。次回はスイス・ジュネーブからフランス・パリです。

(浅野)



「パートナー情報誌 香澄」

原稿募集

「香澄」はパートナーの皆様と一緒に作る情報誌です。常時募集しておりますので 非原をお寄せください。

特にテーマは設けません。パートナー自身のプロフィールやセンターでの活動体験記、身の回りの話題、また、川・写真など何でも結構です。

原稿はパートナー室の“香澄メールボックス”にお入れください。

香澄俳壇

十月三日 中秋の名月 土浦の花火
 子犬の散歩道にて

雲の間に 消えては出ずる 宵の名月
 秋の宵 花火に負けじと 円い名月
 (小島 五男)

あの夏の 暑さはどこに 枯れ葉踏む
 ワラびきの 白い懐かし 山の里
 孫の目は どこまで澄んで 秋の空
 (尾形)

「編集後記」

民主党政 になって、今までに無かった 新たな施策が次々に実施されようとしています。国民との約 事であるマニフェストの内 は が非でも実現するとの にはいささか ななところもあるようですが、市 の民である 々は、ただ を んで見 るしかないというのが などところではないでしょうか。(H)